

ネットビジネス準備マニュアル "So Long Yell" シリーズ

コンテンツ攻略編

コンテンツ作成講座

著作権について

本冊子と表記は、著作権法で保護されている著作物です。

本冊子の著作権は、発行者にあります。

本冊子の使用に関しましては、以下の点にご注意ください。

■使用許諾契約書

本契約は、本冊子を入手した個人・法人(以下、甲と称す)と発行者(以下、乙と称す)との間で合意した契約です。本冊子を甲が受け取り開封することにより、甲はこの契約に同意したことになります。

1.本契約の目的:

乙が著作権を有する本冊子に含まれる情報を、本契約に基づき甲が非独占的に使用する権利を承 諾するものです。

1.禁止事項:

本冊子に含まれる情報は、著作権法によって保護されています。甲は本冊子から得た情報を、乙の書面による事前許可を得ずして出版・講演活動および電子メディアによる配信等により一般公開することを禁じます。特に当ファイルを無断で第三者に渡すことは厳しく禁じます。甲は、自らの事業、所属する会社および関連組織においてのみ本冊子に含まれる情報を使用できるものとします。

1.損害賠償:

甲が本契約の第2条に違反し、乙に損害が生じた場合、甲は乙に対し、違約金が発生する場合が ございますのでご注意ください。

1契約の解除:

甲が本契約に違反したと乙が判断した場合には、乙は使用許諾契約書を解除することができるものとします。

1.責任の範囲:

本冊子の情報の使用の一切の責任は甲にあり、この情報を使って損害が生じたとしても一切の責任を負いません。

もくじ

著作権について	2
もくじ	3
第1章 コンテンツを作成しよう	5
貯コンのすすめ	7
使い道を区別しない	11
コンテンツを発展させよう	14
第2章 PDFを作ろう	15
Open Officeを導入しよう	16
まずは体裁を整えよう	18
ヘッダーとフッターの設定	19
余白の変更をする	23
文字のサイズや種類を変更する	25
バランス良い文書にしよう	27
見出しを入れて目次を作ろう	30
表紙を作ろう	34
PDFに出力しよう	41
第3章 音声コンテンツを作ろう	42
ICレコーダーで録音する	43
パソコンで録音する	44
スマートフォンで録音する	57
音声ファイルの形式を変換する	59
音声を編集する	62
第4章 FTPでアップロードする	65

第5章 動画コンテンツ	70
動画コンテンツの撮影パターン	72
パソコンの画面を動画キャプチャする	74
QuickTime Playerを使って録画する(Macのみ)	80
スマートフォンなどで動画を撮影する	85
YouTubeを活用しよう	86
動画の冒頭や末尾をカットする	91
動画をmp4形式に変換する	98
終わりに	102

第1章 コンテンツを作成しよう

あなたがこれからビジネスを起こし、大きく展開していく上で、 一番重要なものはなんだと思いますか?

集客でしょうか? マーケティングでしょうか? コピーライティングでしょうか?

いいえ。

確かにこれらも重要ですが、一番ではありません。

一番大切なもの。
それは「コンテンツ」です。

コンテンツには、ブログやメルマガの記事のほか、音声や動画、PDFなど、いろいろな形式があり、こういったコンテンツをどれだけ用意できるかが、これからのビジネスの勝敗を分けるといっても過言ではありません。

例えば、お笑い芸人を想像してみてください。 お笑いの「芸」だって、ひとつのコンテンツですよね。

もちろん、売れるためには事務所のチカラだとか運だって必要でしょうが、 根本的に**面白いコントや漫才が作れなければ、 売り出してもらえるチャンスすらない**のです。

この図式は私たちも一緒。

これから私たちがやっていくのもコンテンツビジネスですから、コンテンツが多ければ多いほど、切れるカードが増えるわけです。

確かに集客もマーケティングも大事だけれど、 結局、なんだかんだ言ってコンテンツを持っている人が勝つんです。



あちらには面白そうなブログ記事。 こちらには目からウロコのメール講座。 抱えきれないほどたくさんのプレゼントだってもらえちゃう。

まるでおもちゃの国にやってきた子供のように心躍らせながら、あなたのコンテンツに飛び込む読者の姿を想像してみてください。

そんな体験をした読者は、きっとあなたの大ファンになってくれます。 読者の心をわし掴みにすることができたら、きっとその人は ものすごい熱意を持って、あなたについてきてくれるでしょう。

こういう読者さんを、一人、また一人と獲得していくうちに、 あなたのビジネスは飛躍的に大きく育っていくのです。

その第一歩がコンテンツ。 これから、そのコンテンツ作成について学んでいきましょう。

貯コンのすすめ

「貯コン」とは、コンテンツを貯めること。

ブログ記事でも音声データでも動画でもPDFでもなんでも、 貯金ならぬ貯コンテンツ、略して「貯コン」。

他人の作品をコレクションすることではありませんよ? 他人の作品をいくら集めようが貯コンとは言いません。 **自分でコンテンツを作ってためていくことに意味がある**んです。

たとえば、メインブログの記事だってコンテンツ。 面白くて役に立つ記事をたくさん書き溜めるのも貯コンだし、 思いついたことをちょこっと音声録音するのも貯コンだし、

購入者さんへのサポートメールだって、 きちんと配布の許可を得れば立派なコンテンツになります。

そうやって作られたコンテンツたちが、いつしか大きな遊園地のように、 たくさんの読者さんをもてなし、熱心なファンを作って 稼ぎを生み出す装置となってゆくのです。

だからといって、そう難しく考える必要はありません。

例えばたった5分程度の音声コンテンツでも、あれば何かと役に立ちます。 5分の音声なら手軽にすぐに作れそうでしょ?

もしそのたった5分の音声コンテンツが10本あったら?30本あったら? 急なキャンペーンが突然やってきたって余裕で対応できるし まとめて使えばかなりインパクトのある特典コンテンツになるでしょう。

ただし、こういったコンテンツは頭の中だけで覚えておくのではなく、 音声なりPDFなり動画なり、**見える形でいくつストックできるか**が勝負。

頭の中だけでネタをストックしようとすると 「面白いネタ思いついたのに、<u>なんだったか忘れちゃった</u>」 「そのうちPDFにしようと思ったまま全然できてないや」

って、せっかくのアイデアを思いついたことすら忘れてしまうのです。

どんな面白いアイデアも形にしなければ無いのと一緒。 下手でもいいから目に見える形に残すことが大事。

数年前、とあるアフィリエイターさんが

「思いついたらところ構わずボイスメモを録る」というのを実践したら たった1ヶ月で100本の音声コンテンツを作り上げたことがありました。

朝から晩までICレコーダーを首から下げて、ひらめくたびにその場で録音。

本やテレビを見たり、ブログを書いたり自宅でくつろいだりするうちに ふと思い浮かぶものがあればとにかく録音していたら、 あっという間に100本になっていたのだそう。

100本もオリジナルコンテンツがあれば、すごいインパクトですよね。 プレゼントや特典などの販促活動もとても豪華になります。

その中にwebマーケティング系のかなりいい話があったのですが 「それ、うちのトイレで録ったの。ちょうど思いついちゃってさ~(笑)」 いいよぉ、個室だしね!ガハハ、などと笑っておられました。

いやいやトイレって、なんて思わなくもないですが、 でもそれでいいのです、貯コンって。

ちょっと録ってみた音声とか、作業ついでに撮ったスクショとか、 そういうちょっとしたメモみたいなものが、

そのまま販促コンテンツになったり、もうちょっと作り込むことで 販売用などの大きめのコンテンツになったりしていくんだから。

むずかしく考える必要はありません。 むしろ、すごいものを作ろうとするよりも、 いま思いついたアイデアを逃さない工夫の方が大事。

別の知り合いのネットビジネス起業家の方も、いつもICレコーダーを持ち歩いて思いついたらボイスメモするそうで「さっき散歩中に思いついて公園で録った音声」とか普通に出てきます。

メール 1 通で億単位の稼ぎがあるような方ですし、 たくさんお金があるんだから自宅に録音スタジオくらい ポンと作れるはずなのですが、でも、それではダメ。

思いついたから、じゃぁ家に帰ってスタジオで・・・って **モタモタしている間に、せっかくのアイデアが霧散**してしまいます。 (思いついた時の**情熱のままに語るライブ感**も薄れますしね)

いつでも思いついたら数秒で録音開始できるようにしておくのがポイント。 録音でもメモ書きでもいいので、とにかく形に残すことが大事。

なぜなら「後からメモ」はもうアイデアをドブに捨てたのと同義ですから。

まずはボイスメモから始めてみましょう。

先ほども出てきたICレコーダーがあればぜひ活用してみてください。

もちろん、スマホを利用しても構いません。 ただ、スマホは多機能で便利すぎ、色々なことに使えるため、 いざという時にメール中だったり電話中だったりなど、 すぐに使えない状況になることもありますので注意が必要です。

どうせ最初は自分しか聞かないんだし、少々の失敗なんて編集で消せます。だから周りの雑音なんて気にしないで、どんどん録りためてみてください。

まずは、とにかくどんどん録って、数を確保してみましょう。 ネタをストックしているつもりで、細かいことは気にせず、 思いつくままにじゃんじゃん録ってみてください。

最初は1本5分を目標に、ダラダラ長くしゃべらないのがコツ。

長い音声は聞く方も負担が大きくなりすぎて反応が悪くなります。短い時間で端的に、ポイントを絞って話すように心がけましょう。

使い道を区別しない

コンテンツ作成の1番のポイントは、 あれこれ気にしないでとにかくじゃんじゃん作ることです。

コンテンツを作るとき、なんとなーく 「完成したらメルマガの登録特典にしよう」 「1万円以上の購入特典に使えるものを作ろう」 など、ある程度の使い道を考えてみたりしますよね。

ところが、実は「有料で売ろう」「無料で配ろう」など、 **使い道を気にしながらコンテンツを作るのは、すごく悪手**なんです。

無料用だの有料用だのと"等級ありき"でコンテンツを作ろうとすると、「無料で配るのにこんなネタまで盛り込むのは**もったいない**」と、つい手控えて実力を出し惜しんでしまうことがあるからです。



本当はもっとすごいのだって配れるんだけど、

どうせ無料で配るんだしもったいないからこの程度でいいや、 いざという時のために"とっておき"はとっておきたい、 有料用と無料用は格差をつけないとバリュー感が出ないよね、など、

コンテンツを作るときにわざとパワーを出し惜しみ、 本来あなたが作れるレベルに全然足りていない「しょんぼりコンテンツ」。

これでは**たとえ無料だとしてもバリューを感じてもらえません**し、 クオリティ次第では逆ブランディングになってしまい、 **かえってこちらがダメージを受けることもある**のです。

特に駆け出し初心者さんはまだまだスキルも知識も発展途上。

配布できるオリジナルコンテンツなんてほとんど持っていない上に、ベテラン勢のようにぽんぽん作り出せる訳でもありませんから、どうしても、数少ない手持ちコンテンツのうちの一番いいものは 購入特典などの有償用に取っておきたいと思うのが当たり前でしょう。

けれど、そうやって「とっておきのコンテンツ」を出し惜しみ、 グレードを下げたコンテンツを無料配布したらどうなるでしょうか?



もしもとっておきの1本を使えば、100人集客できたかもしれないのに、 出し惜しんだがために10人しか集まらなかったとしたら?

それに、読者さんにはあなたの出し惜しみなんて分かりませんから、 当然、**読者さんが評価するあなたの実力は、 あなたが出し惜しんだ分だけマイナスされる**ということです。

実力が100として、出し惜しんで50しか力を使わなかったとしたら、 読者さんはあなたを「そもそもたった50しかない人」だと判断します。 これではあなたの魅力なんて伝わるわけがありません。

とっておきの1本こそ、出し惜しむことなく全力でプッシュすべき。

「ここで最終奥義のカードを切ったらもう手持ちがなくなっちゃう」 なんて怖がらなくても大丈夫。

とっておきの1本をプッシュすることで集客に成功した、 とっておきの1本をプッシュすることで商品が売れた、 その境地に立つことで次の扉が開くからです。

扉の向こうの新しいステージに進むことができれば、 もう一歩踏み込んだ次の段階のコンテンツが作れるようになります。

このように、駆け出しの初心者であればあるほど、 どんな使い道のコンテンツにも全力で取り組み、 出し惜しむことなく撃ち続けて認知を上げていかなければいけません。

まだ出来てもいないコンテンツのグレードやクオリティに 優劣をつけている場合ではないのです。

どんな使い道をするにせよ、今は気にしないで、 とにかくじゃんじゃん作ってみて、 出来上がってから、その内容に応じて使い道を決めていきましょう。

コンテンツを発展させよう

ボイスメモなどをうまく使って貯コンが進んできたら、 貯コンしたコンテンツをさらに発展させてみましょう。

日々の**ブログやメルマガの記事**に使ったり、 **PDFレポート**にまとめて配布することもできます。

内容によっては、Twitterで拡散させる方が効果的な場合もあるでしょう。

もちろん、ボイスメモとして録った音声データをそのまま配布してもOK。

小出しにちょこちょこ使ってもいいし、 いくつかまとめてボリュームを持たせればバリュー感を演出できます。

発展させられそうなネタならもう少し作り込んで、 簡単なボイスメモから**相応のセミナー音声にステップアップ**させれば、 単独でも十分な付加価値をつけることもできますね。

これらはブログやメルマガ上でゲリラプレゼントにしたり、 ステップメールの登録特典として使ってもいいし、 購入特典や有料販売など、有償で使うケースもあります。

また、音声に後から画像をつけて動画にする方法もあります。

そんなに本格的な編集作業ができなくたって、 簡単なスライドをつけて紙芝居みたいに加工するだけでも全然OK。

動画なら、YouTubeに投稿することで拡散効果が期待でき、 集客につなげることが可能です。

では、ひとつずつ詳しくみていきましょう。

第2章 PDFを作ろう

PDFとは、Portable Document Format(ポータブルドキュメントフォーマット)の頭文字をとったもので、アドビシステムズによって開発された、パソコンなど電子用の文書フォーマットのことです。

PDFなら、WindowsでもMacでもスマホでも、 ワードやエクセルが搭載されていなくたって閲覧できるし 文書を勝手に改変されにくいので、広く公開するにはうってつけ。

職場のやりとりじゃあるまいし、 ワードで文書を送られても困ると思いませんか? 今どき、ワードやエクセルを搭載していないパソコンも多いですしね。

その点、PDFなら無料だし幅広い環境で読めますね。

また、近年ではスマホの普及もあり、文字より動画の方が手軽だし 反響も良い、という人も多くなってきました。

でも動画って「ここだけ知りたい」「確認しながら進めたい」という時該当する場所を探したり何度も巻き戻したりするのが面倒です。

昨今は何でもかんでも動画になる世の中ですが、私は個人的に、 見たい時に見たい数字がすぐに見られないという理由で 「レシピ動画」が大キライです。

こんなふうに、いくら動画の時代といっても向き不向きがありますから、 コンテンツの状況に応じてPDFを効果的に使って、 ぜひ読者さんの利便性を高めてください。

Open Officeを導入しよう

PDFで文書を作成するには、たとえばワードやエクセル、パワーポイントなどで元になる原稿を作成する必要があります。

けれども、家庭用のWindowsパソコンの場合、 そもそもOfficeが搭載されていないケースも多々ありますよね。

ここでは、ワードやエクセルが入っていないパソコンでも、 ワードやエクセルと同じように文書が作成でき、 そのままPDF出力も可能な「OpenOffice(オープンオフィス)」の、 インストールからPDF出力までを解説します。

すでにワードやエクセルなど、別の文書作成ソフトが入っている場合は このオープンオフィスのインストールは不要ですので飛ばしてください。

まずは、このサイトにアクセスしてオープンオフィスをインストールしましょう。

Windows用かMac用かは自動で判別してくれます。

https://www.openoffice.org/ja/



The Free and Open Productivity Suite

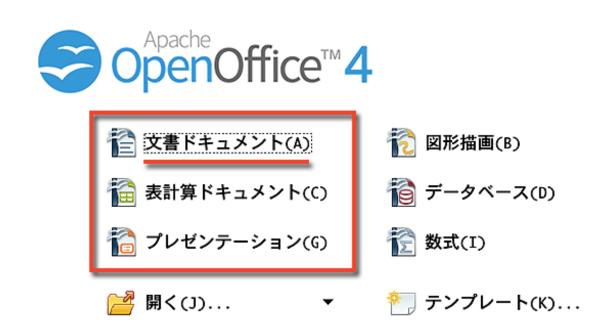


Announcing Apache OpenOffice 4.1.6



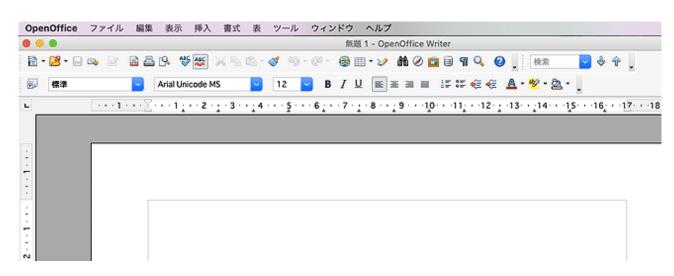
インストールファイルをダウンロードしたら、 案内に従ってダウンロードしてください。

インストールが終わったら、デスクトップなどにアイコンができていますので、早速クリックしてオープンオフィスを起動してみましょう。



普段、よく使うソフトが赤枠で囲んだこの3つ。 いわゆるワード、エクセル、パワーポイントに相当する機能です。

では、早速「文書ドキュメント」をクリックし、作成してみましょう。



まずは体裁を整えよう

では、最初に全体のレイアウト設定を見てみましょう。

例えば、ヘッダーやフッター、ページ全体の余白設定など、 先に済ませてから本文を書いていかないと、こんな悲劇が起きる恐れが...!

確認するようにしましょう。

第3章 アカウント運用のルール

それでは、先ほど取得したアカウントを運用する上での 効率よく運用するポイントを見ていきます。

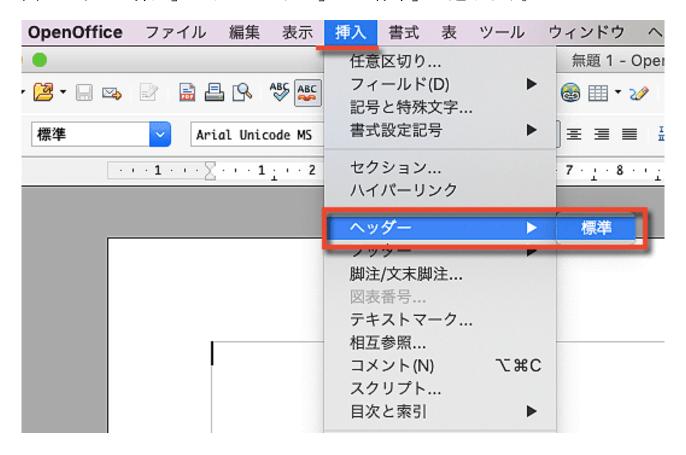
ページ番号を入れたり、余白を調整する作業は、 **文章を書き始める前に済ませて**おかないと、 後から加えると文章がはみ出したりして全体のバランスが崩れ、 その修正に余計な手間がかかります。

ということで、まずはヘッダーやフッターを加えたり、 余白の調整を先に済ませてしまいましょう。

では、よく使うであろうヘッダーやフッターの設定を見ていきます。

ヘッダーとフッターの設定

では、文書にヘッダーとフッターを入れる方法を見ていきます。 図のように「挿入」から「ヘッダー」→「標準」と進みます。



すると、このようにヘッダーエリアができますので、 新しくできたヘッダースペースをクリックして言葉を入力しましょう。

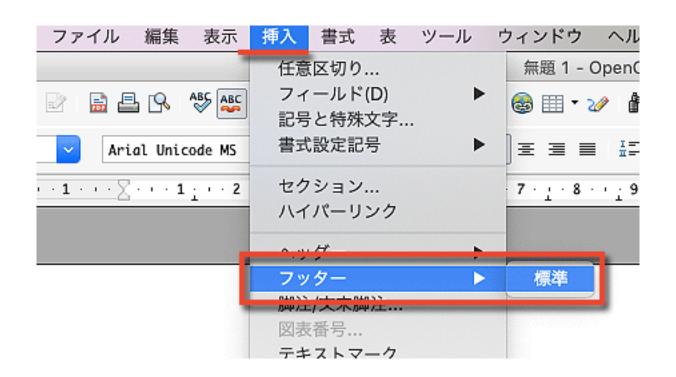


ヘッダーは、基本的にこのPDFのタイトルを入力するケースが多いです。 入力した文字のサイズやフォントの種類などは好きなように変更できます。

また、ヘッダーに文字を入力するのは何ページ目でもOK。 どのページに書いても自動ですべてのページに適用されます。



このようにヘッダーができました。ついで、フッターエリアを設定します。

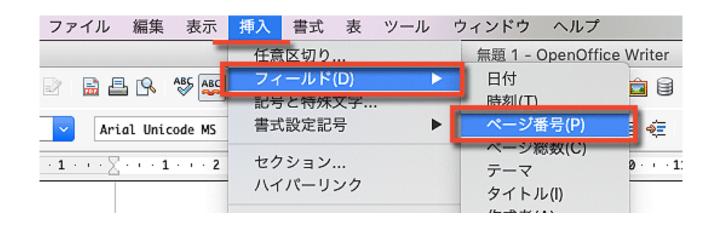


図のように「挿入」から「フッター」→「標準」と進みます。



このように、フッターエリアができました。 ではここに、ページ数を自動で出力させる設定をしてみましょう。

まずは、フッターエリアにマウスのカーソルを当てて 1回クリックしておきます。



「挿入」から「フィールド」→「ページ番号」と進みます。 すると、このようにページ数が自動で表示されるようになりました。



これで、フッターエリアも完成です。

余白の変更をする

では、次に文書全体の余白の設定について確認します。

とはいえ、通常であれば余白を変更する必要は全くなく、

標準の設定のままでOKなのですが、少し華やかなデザインのテンプレートを使うなど、デザインの関係で余白を変更したい時には参考にしてください。



「書式」から「ページ」へと進みます。



「ページ」タブから余白を変更します。

文字のサイズや種類を変更する

本文を書き上げてから変更すると全体のバランスを崩しやすいのが、 本文に使う**文字の種類や大きさ**です。

文字の大きさや種類は、その文書の演出の方向性で変わってきます。

例えば、出来るだけカッチリと堅実に見せたい文書なら明朝体とか、 初心者向けの優しい雰囲気を演出したいときは、丸ゴシックやメイリオのよ うな丸っこい書体を選ぶと、印象が柔らかくなります。

<ヒラギノ明朝 12 ポイント>

春は、あけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは 少し明りて紫だすたる。夏は、夜。月の頃はさらなり。闇もなほ。螢の多く飛び違て 二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし

<メイリオ 12 ポイント>

春は、あけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは 少し明りて紫だをたる。夏は、夜。月の頃はさらなり。闇もなほ。螢の多く飛び違で 二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし

<筑紫B丸ゴシック 12 ポイント>

春は、あけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは 少し明りて紫だりたる。夏は、夜。月の頃はさらなり。闇もなほ。螢の多く飛び違で 二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし

また、大きめの文字は「やさしさ」「ハードルの低さ」、 小さめの文字だと「専門的」「本格的」「難易度が高め」 という印象を与えます。

とはいえ、あまりに大きすぎる文字や小さすぎる文字は読みづらく、 テンポよく読めない文書はまともに読んでもらえませんから 通常は12ポイントを中心に1~2ポイント程度の差におさめましょう。

また、手書き風のフォントやPOP用などデザイン性の高いフォントは、 演出次第でさまざまな印象の文書にすることができます。

<ふい字 12 ポイント>

あたらしいあさがきたきぼうのあさだ

<シンデレラボールド 12 ポイント>

あたらしいあさがきたきぼうのあさだ

<めもわーるレギュラー 12 ポイント>

あたりしいあさがきたきぼうのあさだ

とはいえ、これらのフォントはパッと目を惹く効果は高いけれど、 ずーーっとこんな文字が続くのはさすがにしんどくて読めませんので 本文の記載に用いるのは避けましょう。

バランス良い文書にしよう

きれいで読みやすいPDF文書を作るためには、 文字のバランスに配慮することも大事です。

例えば、文字の装飾。

春は、あけぼの。やうやう自くなりゆく山ぎは少し明りて紫だちたる雲の細くたなびきたる。夏は、夜。月の頃はさらなり。闇もなほ。螢の多く飛び違ひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。

春は、あけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは 少し明りて**紫だちたる雲**の細くたなびき たる。**夏は、夜**。月の頃はさらなり。闇もなほ。<mark>螢の多く</mark>飛び違ひたる。また、ただ一つ 二つなど、<mark>ほのかにうち光り</mark>て行くもをかし。雨など降るもをかし。

上半分は装飾のしすぎでとても読みにくく、目がチカチカします。 装飾のルールも分かりにくくて どのフレーズが大事なのかがさっぱりわかりません。

文字の装飾は、強調したい部分だけ、秩序を持って行いましょう。

「注意してほしいフレーズ」

「重要なフレーズ」

「特に重要なフレーズ」

の3段階くらいに抑えて使うようにすると画面がすっきりし、 読者にとっても重要なフレーズが判別しやすくなります。

また青や紫の文字は通常、リンクを表しますので 強調したい時の文字装飾には使わないようにしましょう。

そういった文字装飾以外にも、余白や改行で強調したり、 読みやすさを作り出したりもします。

例えば、子供の絵本なら余白が多くて文字も大きめ、 国語辞典は文字が詰まって余白はほぼゼロ、お堅い印象を受けますね。

春は、あけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは 少し明りて紫だちたる雲の細くたなびきたる。夏は、夜。月の頃はさらなり。闇もなほ。螢の多く飛び違ひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。

春は、あけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは 少し明りて紫だちたる雲の細くたなびきたる。

夏は、夜。月の頃はさらなり。 闇もなほ。螢の多く飛び違ひたる。

また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。

雨など降るもをかし。

春は、あけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは 少し明りて紫だちたる雲の細くたなびき たる。

夏は、夜。月の頃はさらなり。闇もなほ。螢の多く飛び違ひたる。また、ただ一つ二つな ど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。

一番上の文章は、特に余白や改行を意識することなく平打ちにした状態。 余白が少ないため、文字が詰まって読みにくく感じる読者もいるかもしれま せん。

2番目の文章は、わざと早めに改行を入れることで余白スペースを取り、 文字を追う目線がコンパクトになるように配慮したものです。

3番目の文章は、改行を使って程よく空白を入れることで余白スペースを確保しながら、文章を途中でぶちぶちと改行せずに平打ちにしています。

PDFで文書を作る場合は、2番目か3番目のようにします。

余白は、少なすぎると文字が詰まって読みにくく感じますが、 あまりにも余白が多いと文書全体が幼稚に見えてしまいます。

画面から少し離れたところから眺めてみたり、 文章を声に出して読んでみて、リズムよく読めるか確認してください。

余談ですが、ブログやホームページの記事を書く際には、 3番目の「空白行を挟みながら平打ち」がベスト。

Webサイトの文字はデバイスによって1行あたりの文字数が変化します。 スマホとパソコンでは表示される1行あたりの文字数が違うのです。

2番目のようにぶちぶち改行してしまうと、 パソコンではほどよく見えてもスマホではブサイク、 なんてことになりかねませんので注意しましょう。

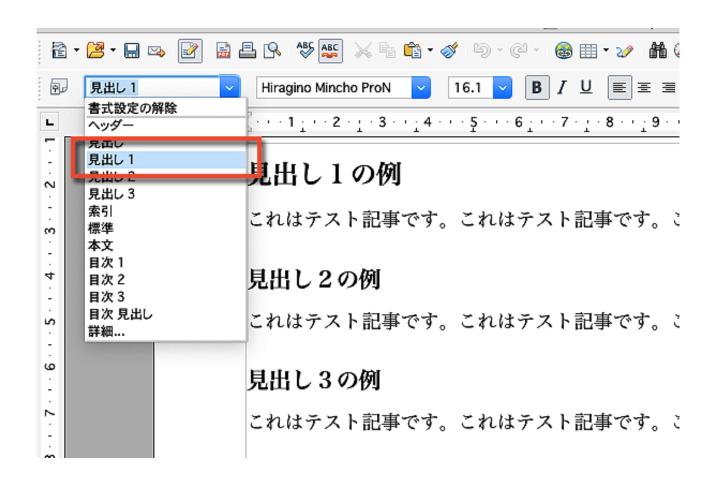
その点、PDFは文字数がデバイスに左右されませんので、 2番目の「ぶちぶち改行しながら余白スペースを作る」方法でもOKです。

見出しを入れて目次を作ろう

何十ページもあるようなPDFコンテンツには、 読みやすさや目的のセクションの探しやすさのために、 見出しを効果的に配置しましょう。

見出しをきちんと作っていけば、 作った見出しから目次を出力させることができます。

見出しは、見出しにしたい行をマウスでぎゅーっと指定して、 図のように「見出し」を指定すればOK。



見出しには「見出し1」から「見出し3」まであり、 これらは**各見出しの重要度によって使い分け**ます。

目次
見出し1の例1
見出し2の例1
見出し3の例1
見出し2の例1
見出し3の例1

このように、後から目次を出力した際に、 見出しのレベルで目次のレイアウトが変わります。

「見出し1」は、話が大きく転換する時の大見出しとして、

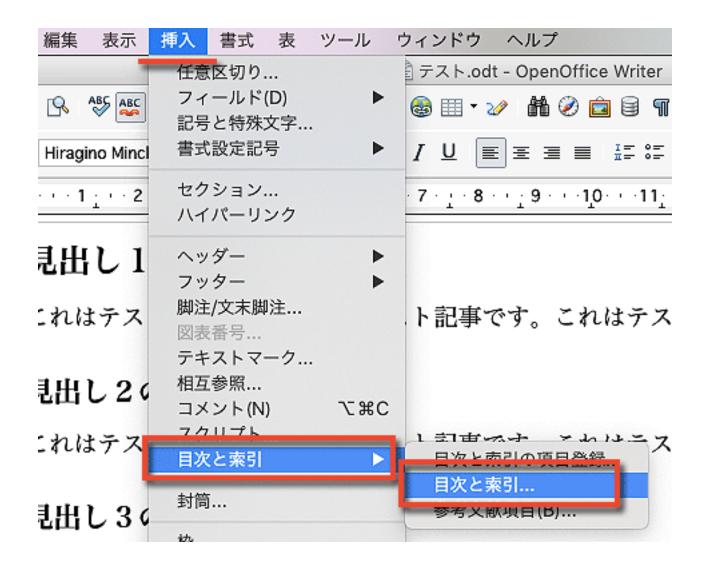
「見出し2」は、話の中で区切りをつける時の中見出しとして、

「見出し3」は、さらに細かい展開を区切る時の小見出しとして配置します。

見出しが綺麗に入ったら、そこから目次を生成してみましょう。

多くの場合、文書の2ページ目や3ページ目あたり、 表紙の次ページくらいになると思います。

目次は、目次を挿入したい場所にマウスのカーソルを当てておいて、 「挿入」から「目次と索引」→「目次と索引」と進みます。

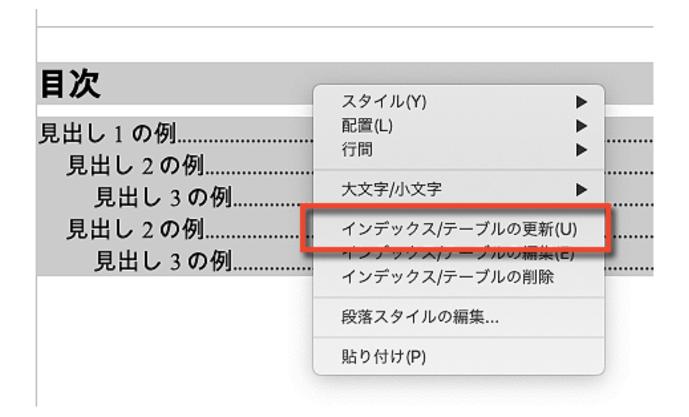


すると、先ほどカーソルを当てておいた場所に目次が出力されます。

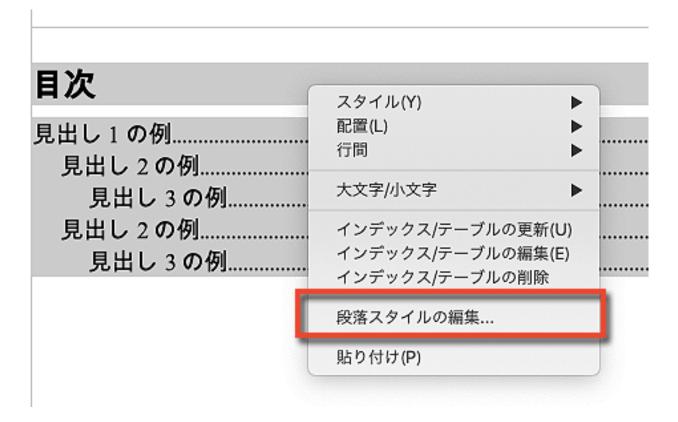
ただし、目次を出力した後で、 本文を書き足したり削ったりしてページ数が変わっても、 目次は自動で反映してもらえません。

そんな時には、**目次の上あたりで**【 右 **】 クリック**して「インデックステーブルの更新」をクリックすると 最新の状態に更新されます。

この時、いつもの左ではなく右クリックをする点に注意してください。



また、目次に表示される文字のフォントを変更したいときなどは、 このように「段落スタイルの編集」をクリックすれば設定できます。



表紙を作ろう

きれいでかっこいいPDFコンテンツを作るためには、 やはり何といってもクールな表紙は欠かせませんね。

かっこいい表紙はすごく見栄えが良くなってバリュー感がアップします。

実は、こういった表紙はさほど難しくなく、割と簡単にクールな画像を 表紙に設置することができますのでぜひチャレンジしてみてください。

まずは、表紙に使う画像を準備します。 画像はフリーの素材サイトなどを上手く使えば便利です。 (くれぐれも使用許可のない画像を勝手に使わないように)

素材サイトから画像を選ぶ際には、以下の点に注意しましょう。



◆ そのまま使えて便利◆ タテや横に少々伸びてもあまり気にならないのも良い

↓こんな風にカットして使う



- トリミングして 左右をカットすれば使える左右をカットしてA4サイズに 引き伸ばすので大きな画像を用意

● カットしたり引き伸ばしたり すると本来のきれいさを 失いやすく、ごまかしにくいため ちょっと扱いづらいデザイン

可能であればヨコ長よりもタテ長の画像が望ましい

縦長の画像であれば加工なしにそのまま表紙に使えるため。 横長でも、一手間かかるがトリミングすれば使える。

少し大きめのサイズでダウンロードする

A4サイズのPDFの表紙にするため、サイズの小さな画像だと

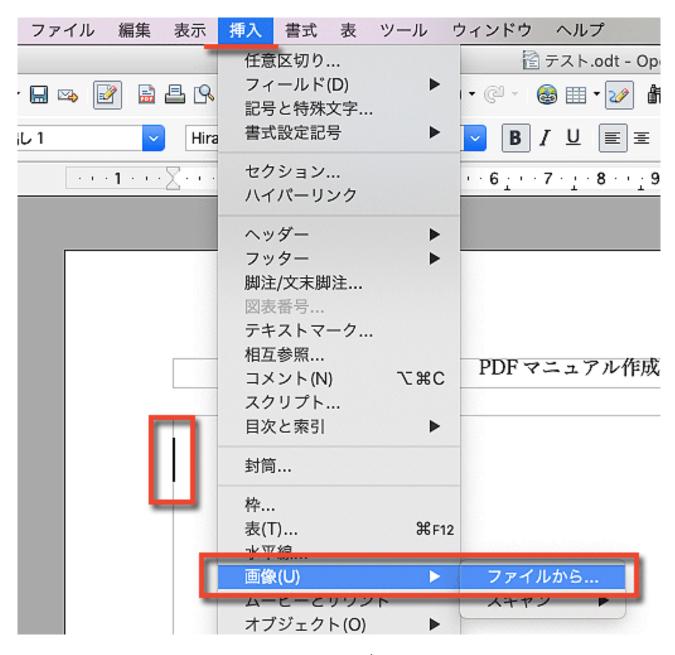
無理をして引き伸ばすことになり、画像が荒く見苦しい仕上がりになる。

サイズを選べるならM以上のサイズが望ましい(一辺1500~2000ピクセルくらいあると良い)

構図や縮尺を気にしない図柄の方が扱いやすい

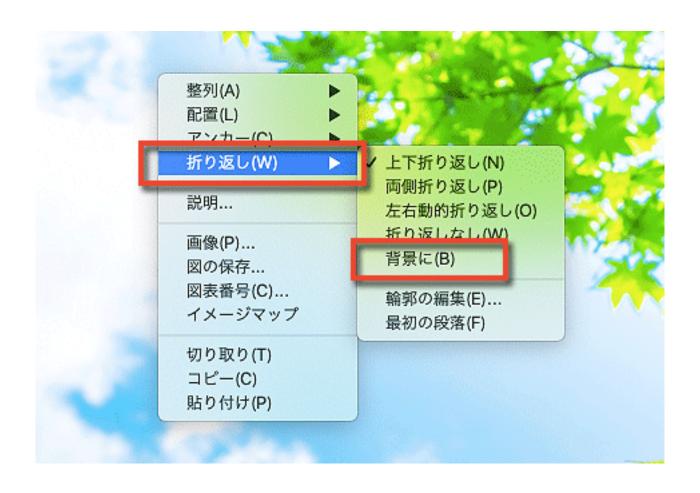
建物や人物など、間延びしたらごまかしにくい画像よりも、空や海など少々伸びてもわかりにくい画像の方が扱いやすい。

では、まず表紙となる最初のページの一番先頭の位置に画像を挿入します。



35ページ

挿入した画像を 【 右 】 クリックして「折り返し」→「背景に」にします。



これでこの画像を背景化することができました。 背景化することで、画像の上から文字を書くことができるようになります。



これなら、フォトショップのような画像加工ソフトを持っていない人でも、 PDFのレポートタイトルを表紙に入れることができます。

もちろん、フォトショップやGIMP、フォトスケープなど、 画像加工ソフトを使える方は、ロゴをデザインした画像を使うとよりかっこ いいものが作れるでしょう。

では次に横長の画像の左右をカットする"トリミング"を行いましょう。

横長の画像を使う方は再び【 右 】 クリックをして「画像」に進みます。

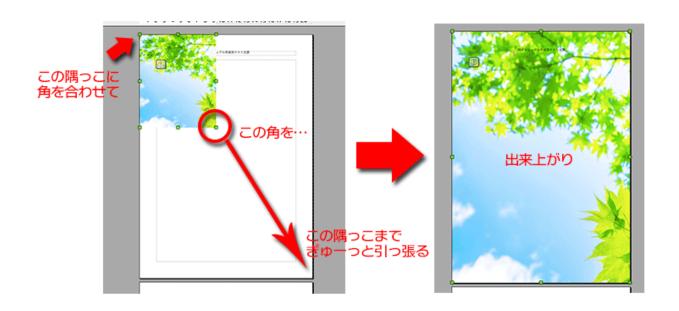


すると、画像の挿入に関するタブが開きますので、 「トリミング」を選んで、図のように横長の画像の左右をカットします。

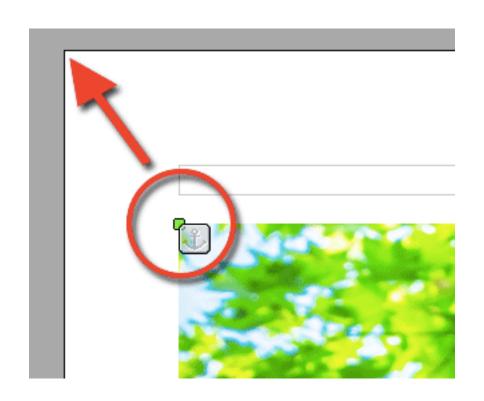


細かい人物像や建物など、間延びしたら困る素材の場合は トリミングの際の縦横比も厳密に計算すべきなのでしょうが、 青空や水(海)の画像のように間延びしてもあまり気にならないような デザインの場合は、カット幅を割とざっくりと決めてもどうにかなります。

OKをクリックしてトリミングが確定したら、このように表紙に設定します。



特に最初の隅っこに画像の角を合わせるとき、余白に引っかかる場合でも、マウスでしっかりつかんでぎゅーっと動かせば大丈夫です。



画像の角にカーソルを当てれば、このように緑色のマークが表示されます。 この緑色のマークをクリックした状態で引っ張ってみてください。

もしも画像加工ソフトなどで、画像にぼかしを入れることができる場合は、

下図の一番右の例のように、途中でぼかしを入れるデザインも可能です。



元の画像



一部を切り抜いたもの



途中でぼかしを入れたもの

工夫次第で色々な雰囲気を創り出せますので、 色々とチャレンジしてみてくださいね。

PDFに出力しよう

出来上がった文書コンテンツをPDF出力してみましょう。

とはいえ、昨今のワープロソフトにはワンクリックでPDF出力できる機能が 標準搭載されているので、ポチッとクリックすればPDF出力完了です。



出力したPDFは自分でチェックして、漏れや抜けがないか確認しましょう。

目次は最新の状態に更新した上でPDF出力しましたか? 全ページをパラパラと見てみてください。 空白ページができてしまっていませんか?

こういった小さなミスを放置すると、ブランディングに影響しますので 気づいたら修正しておきましょう。

第3章 音声コンテンツを作ろう

ここからは、音声コンテンツの作り方を見ていきます。

音声コンテンツは、何と言ってもしゃべるだけのお手軽さが最大の魅力。

思いついたらたった数分あればコンテンツ化できるスピード感は、 文字を起こして挿絵を入れて…と、何かと手間のかかるPDFや 背景や映像まで気を配らなきゃいけない動画に比べて圧倒的。

また、実際にあなたの声を聞くことで親近感を持ってもらえますし、 声に抑揚をつけることで、より言いたいことが伝わることもあるでしょう。

しかも出演は「声」だけですから、ネットに顔を出したくない人でも 声だけならチャレンジできるかもしれません。

声だけの音声コンテンツでも、後から挿絵やスライドをつけて 動画に加工することもできますし、 そもそも音声コンテンツはカットや編集だってかなりお手軽。

少々の失敗なら編集で揉み消しちゃえばいいので ぜひお気軽にチャレンジしてみてください。

音声コンテンツは、主にICレコーダー(ボイスレコーダー)やパソコン、スマホでも録音可能です。

それぞれ、詳しくみていきましょう。

ICレコーダーで録音する

まずは、ICレコーダー(ボイスレコーダー)を使う方法から。

一人で録音する際に一番いいのは、ICレコーダーを使うことです。 ICレコーダーなら、いつでもどこでも持ち運びができ、 **思いついたその場ですぐに録音**してコンテンツ化することができます。

せっかくいい話を思いついたのに、

パソコンを起動して、録音ソフトを立ち上げて...

うーん、面倒…後にしよう…あれ?何だったかな???

...すごくいいことを思いついたのに...となってしまう前に、

スイッチひとつで録音可能なICレコーダーを用意し、

思いついたら2秒以内に録音を始められる環境を整えることがとても大事。

実は、ICレコーダーは安物でも意外と音質クオリティが高いので、 一人でセミナーっぽい話をしゃべって録音する程度であれば パソコンで録音するよりも高音質の音声コンテンツが作れます。

ただし、大きな部屋に人を集めてしゃべる音声を録音するようなときには、 ピンマイクを使うなどの工夫をした方がいいでしょう。

ICレコーダーは、お近くの家電量販店やamazonなどで簡単に入手でき、 価格も3000円程度から手に入ります。

もっと安いものもあるのですが、気をつけないとUSBが付いていなくて 録音した音声データを取り出せないタイプのものがあり、注意が必要です。

選ぶ際には、録音した音声データを簡単に取り出せるかを確認しましょう。 USBでパソコンにそのまま取り込めるタイプが楽チンでおすすめです。

パソコンで録音する

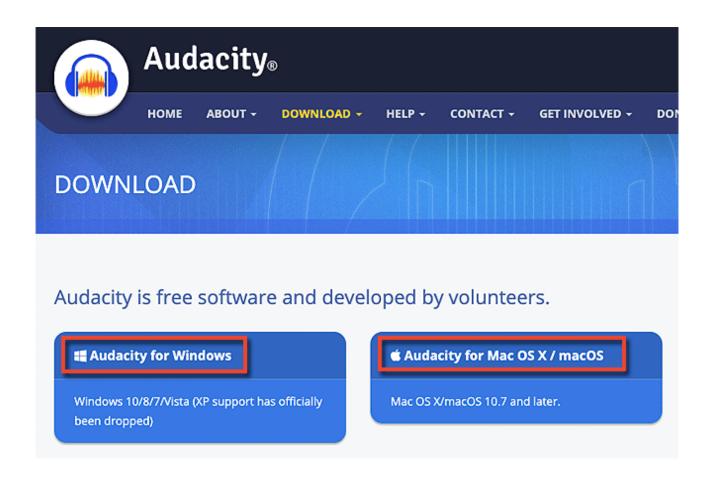
次に、お使いのパソコンで音声を録音する方法です。

ここでは、パソコン上で録音もできて、音声編集も可能な 無料の音声ソフト「Audacity(オーダシティ)」を使う方法を紹介します。

まずはAudacityのダウンロードサイトからダウンロードします。 WindowsかMacを選んでクリックしてください。

[「]Audacity」

https://www.audacityteam.org/download/



すると、それぞれのダウンロードファイルが置かれたページにジャンプします。

WINDOWS

MAC

Recommended Download

Left-click the text link to go to the down (Right-click and "Save as..." will not wor

- Audacity 2.3.1 installer (22 22 MB, SHAZ56: CSTSSTZU614/3433cd545
- Audacity 2.3.1 zip file (13.07 MB) cannot run the installer because of SHA256: 6be81567fe97446eb591

Recommended Downloads – La

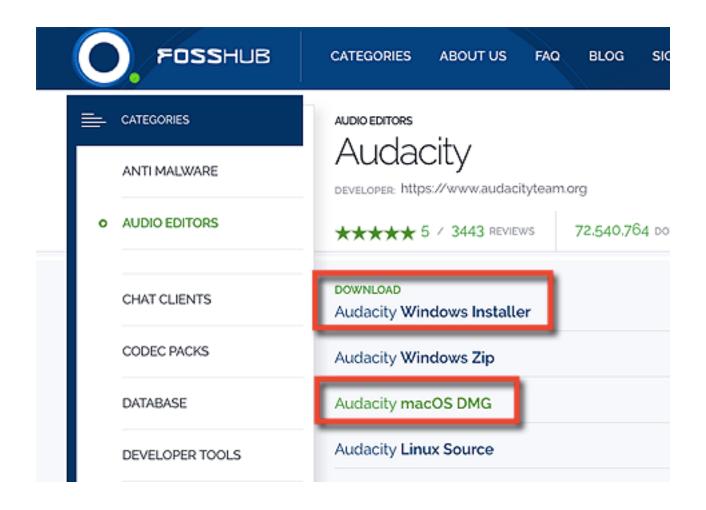
Left-click the text link to go to the download pa (Right-click and "Save as..." will not work.)

Audacity 2.3.1 for macOS is now a 64-bit a If you use the optional LAME and FFmpeg versions of them.

- Audacity 2.3.1 .dmg file (36 71 MB, includ SHA256: cfce59cf73a8339c92d2246de78
- Audacity 2.1.1-ccreen-reader, dmg file /35

このように、一番上に表示されている、

「Audacity●●● installer」またはMacの場合は末尾が「~~dmg file」を選び クリックすると、このようなページにジャンプしますので、 お使いのパソコンに合わせてダウンロードしてください。



データファイルのダウンロードが始まります。

ダウンロードされたファイル(「audacity~~.exe」や「audacity~~.dmg」)をクリックし、案内に従ってインストールしてください。



インストールが完了したらこのようなアイコンが表示されます。

Audacity

ただし、Audacityは権利関係の都合でこのままではmp3という音声形式に対応できないようになっています。

mp3といえば、音声コンテンツでは中心的な役目を担い、 我々が配布する音声コンテンツはほぼ100%mp3形式を使います。 そこで、mp3への対応ができるようにプログラムを追加しておきましょう。

もしもAudacityが起動している場合は必ず終了させておいてください。 起動させたまま次の作業をすると失敗することがあります。

では、mp3対応用の追加プログラムのダウンロードページにアクセス。 https://lame.buanzo.org/#lameosx64bitdl

Windowsの場合は「Lame v●● for Windows.exe」をクリックして ダウンロードしてください。

TO DOWNLOAD Lame and FFmpeg for Windows, click links BELOW:

The Audacity(r) QA Team suggests users download the ZIP version instead of the .EXE or .DMG (fo. versions. If you use the installers, and Audacity does not detect LAME, download the ZIP option, ex files inside to a well known folder, then open Audacity, go to Library Preferences and configure it to on the well known folder you extracted the files to.

NOTICE: MacAfee and at least one other antivirus flags this site as unsafe, which is a fals positive. FILES I HOST ARE SAFE, but always check your downloaded files with www.virustotal.com. 通常はこのファイルだけでOK

RECOMMENDED Installer Package for Windows: Lame v3.99.3 for Windows.exe here)

SHA256 S

ZIP OPTION: 手動で追加する際のデータファイルが入っている libmp3lame-win-3.99.3.zip (Issues? Some help HERE)

If you need or want a newer version of Lame, because of the performance improvements with AMD and Intel processors, here is v3.100 in a ZIP file, known to work with Audacity 2.x. You can find 3.98.2 that is known to work with 1.3.x

Macの場合は「lame 64bit osx.pkg」をクリックしてください。

64-bit LAME for Mac OS X

Mac OSX 64 bit LAME mp3 library 通常はこのファイルだけでOK

RECOMMENDED downloa 1:lame 64bit osx.pkg

ZIP Alternative zip download: Lame Library 64bit MAC OSX for Audacity 2.3.1 and above.zip

For installation instructions please s手動で追加する際のデータッディルが入っている

64-bit FFMPEG for Mac OS X

Mac OSX 64 bit FFmpeg library for Audacity 2.3.1 and above:

RECOMMENDED download: ffmpeg 64bit osx.pkg

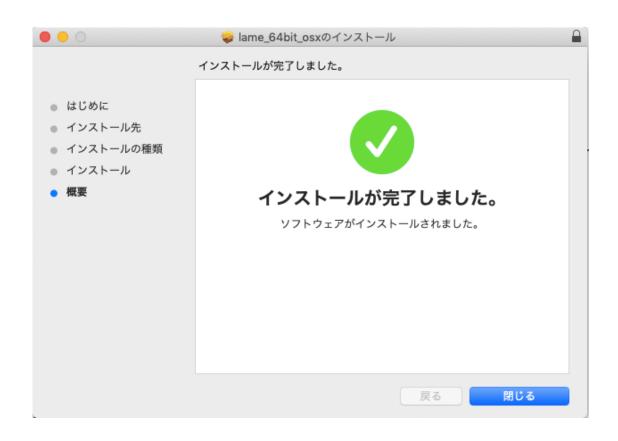
Alternative zip download: FFmpeg64bit MAC OSX for Audacity 2.3.1 and above.zip

For installation instructions please see FFmpeg installation in the Audacity Manual.

ダウンロードしたインストールファイルをクリックすると インストールが始まります。(もう一つのzipファイルは後述します)



これはMacの場合ですが、Windowsであっても同様に インストーラが起動しますので案内に従ってインストールしてください。



通常は、これだけでmp3が書き出せるようになるはずなのですが、 まれにファイルをインストールしてもmp3が書き出せないことがあります。

その際には、手動で追加する用のデータファイルをダウンロードして、 データを追加してやれば書き出せるようになります。

ダウンロードするデータファイルは、前のページの画像でも示した「libmp3lane-win-●●.zip」というzipファイルです。

ちなみにMacの場合、このzipファイル名がやたら長くて「Lame_Library_64bit_MAC_OSX_for_Audacity_2.3.1_and_above.zip」みたいになってます(前のページの画像を参照してください)

Zipファイルをダウンロードしたら解凍し、中に入っている「lame_enc.dll」 (Windowsの場合) または「libmp3lame64bit.dylib」 (Macの場合) をデスクトップなどの分かりやすいところに取り出しておきましょう。

取り出したデータを直接Audacity本体に書き加えます。

書き加えるタイミングは**Audacithyを使ってmp3を書き出そうとした時** Audacityから「"lame_enc.dll"ファイルがいるから用意してね」という旨の メッセージが表示されたら、です。

それもちゃんと「あとから書き加えやすいように」なっているので 先ほどzipファイルから取り出したデータを置いた場所を教えてあげれば ツール側が勝手に処理してくれます。

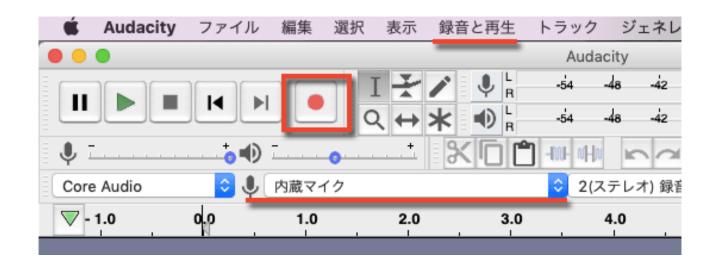
「あー、こりゃ"lame_enc.dll"ファイルがいるわー」「OK、あるよ」「どこにある?」「ん。デスクトップ」「わかった。やってみるねー」という感じの流れですので案内されるままに進めれば大丈夫です。



では、早速Audacityを使っみましょう。 Audacityのアイコンをクリックします。

図の中ほどにある赤い丸のついたボタンが録音ボタンです。

もしくは、一番上のメニューバーにある「録音と再生」タブから 録音を開始することもできます。



基本的には、特に何も設定しなくても録音ボタンさえ押せば パソコンに内蔵されたマイクで音を拾って録音されていきます。

ここでは触れませんが、場合によってはパソコン内蔵マイクではなく、 外付けのmyマイクをパソコンにつないでカラオケ気分でしゃべりたい、 内蔵マイクで声を拾うのではなくパソコンで流れている音楽を録音したい、 といったことも可能です。

録音ボタンをクリックしたら、まずは試しに何かしゃべってみてください。

この時、途中で雑音が入ったら、適当に誤魔化そうとしないで

何事もなかったかのように仕切りなおすのがポイント。

例えば、

「おじいさんは山へ芝刈りに、おばあさピーポーピーポー… (救急車が通った)」このように、いいところで雑音が入ることは多々あります。

でも、音源をあとでちょいちょいっとカットしちゃえば、救急車が通って台無しになった部分を綺麗さっぱり"なかったこと"にできますので「おじいさんは山へ芝刈りに、おばあさピーポーピーポー…(気を取り直してもう一度) おばあさんは川へ洗濯に行きました」

といった具合に、雑音で台無しになった部分を後からカットしても 前後がつながるように仕切り直し、続きをしゃべりましょう。

ミョーな間が空いた、噛んだ、どもった、言い間違えた、など、ついどうにか誤魔化して切り抜けようと思ってしまいがちですが、誤魔化すよりも後で編集した方がずっと完成度が上がりますので、無理に誤魔化そうとするよりも言い直した方がいいです。

ちなみにこの時、あとで編集しやすいように、続きのしゃべり出しは 1拍分の間を空けるとわかりやすいです。

また、いいとろこで宅配便が来たとか電話がなったなど、 中断が長引きそうな場合は「一時停止」をクリックしてください。



話し終わったら「停止」ボタンを押せば録音終了です。



録音が終了したら、このまま編集作業に移行するか、 もしくはいったん音声データを取り出して保存することになります。

この流れで編集までやってしまおう、という方は、このマニュアルのもう少し先のページに編集作業のやり方を書いています。

今は編集しない、もう編集しなくてもこのまま完成でいい、 という方は、録音した音声を取り出して保存しておきましょう。

音声を取り出す際には、音声の「形式」を選ぶことになります。

• MP3形式(編集せずこのまま配布する用)

MP3形式は、データサイズが小さくて軽いため、 音声コンテンツを配布する際にとても適しています。

これは元の音源データを、2度と元に戻らないほど ギュウギュウに圧縮しているためで、性質上どうしても音質は落ちます。

特に、MP3をそのまま編集してMP3で保存すると、 ただでさえ圧縮された音源をさらに圧縮することになるので 音質が大きく劣化することになります。

音声を取り出す際、編集することがわかっている場合は、 音質が劣化しないWAV形式で保存したものを編集し、 最終的に完成した音声をMP3で圧縮保存するようにしましょう。

MP3形式で保存された音声を編集する際にも、いったんWAV形式に変換してから編集し、 完成した音声を改めてMP3に変換するようにしてください。

• WAV形式(後で編集するとき用)

WAV形式は、元の音源データを一切圧縮しないで保存するため、 高音質をキープすることができる代わりに、 データサイズがとても重たく、配布には向きません。

圧縮しないので音質が劣化することなく保たれますから、音声のカットやつぎはぎなど、編集作業に向いています。

ただ、やはりびっくりするほど重たいので、そのままではサーバーにアップロードするのも大変なほど。

WAVはあくまでも編集作業用の形式、 配布するならMP3と覚えるといいでしょう。

• Audacity独自の保存形式(あまり使用しない)

Audacityには、Audacity独自の保存形式が用意されています。

ただ、利用する際に不具合が起きやすく、 ちょっと使いづらいので、**録音や編集をした音声は、** 毎回、WAV形式かMP3形式で書き出して保存してください。



図のように、音声ファイルの名前をつけ、保存先を設定して 「保存」ボタンをクリックしてください。

音声の書き出し
名自: テストmp3
97:
場所: ニュデスクトップ 🗘 🔻
ファイルの種類: MP3 ファイル
フォーマットオプション
ビットレートモード: ○プリセット ○可変 ○平均 ○固定
品質 標準、170~210 kbps ♀
可変時の処理速度: 高速
チャンネルモード: ジョイントステレオ ステレオ 〒ノラルに強制
?
キャンセル 保存

すると、この音声にさらに細かい情報(製作者名を入れるなど)を 設定できる画面が開きますので、必要な方は入力してください。

	メタデータタグを編集	
矢印キー (編集後は Enter キー) を使ってフィールド内を移動してください。		
タグ	値	
アーティスト名		
トラック名		
アルバム名		
トラック番号		
年		
ジャンル		
コメント		
	追加削除消去	
ジャンル	難形	
編集(D) リセット(T) 読み込み(L) 保存(S) デフォルトに設定		
	キャンセルOK	

必要ない方はそのまま何も入力しなくてOKです。

これで、パソコン上で音声を録音できるようになりました。

スマートフォンで録音する

では次に、スマートフォンを使って録音する方法を見ていきましょう。

スマホでも、iPhoneなら「ボイスメモ」というアプリが標準搭載されていて、音声の録音や簡単な編集作業もその場でできるのですが、

Androidの場合は機種によって搭載されているアプリにかなりばらつきがあり、音声録音ができるソフトが必ず搭載されている訳ではありません。

とはいえ、Google Playで少し検索するだけでも、 録音ソフトがたくさんヒットしますので、 ここではそういった無料アプリを活用していきましょう。

また、iPhoneの方でも、標準搭載の「ボイスメモ」が使いにくい時は App Storeで「ボイスレコーダー」などと入力すると たくさんのアプリが見つかりますので活用してみてください。





アプリを選ぶ際には、たくさんの人にダウンロードされていること、 レビューや評価が高いことに着目するとあまり大きく外れたりしません。

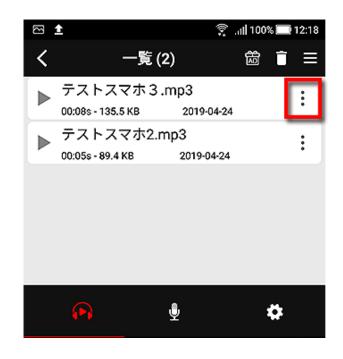
ただし可能ならば録音した音声をMP3で出力できるアプリが望ましいです。

WAV形式だとそもそも圧縮されていないのでファイスサイズが膨大で、パソコンに取り込むのが一苦労ですからスマホ録音には向いていません。

また、アプリの中にはちょっとマニアックな形式で出力するものもあり、 編集や配布のために形式を変換させる手間がかかることもあります。

もともとちょっとビジネスの話をしゃべる音声を録るだけですので聞き苦しくない程度の音質があればそれで十分。 あまり音質そのものにこだわらなくても大丈夫です。

簡単操作でわかりやすく、データの取り出しが容易なものを選びましょう。





このように、録音後の音声は「Dropbox」や「GoogleDrive」などを経由してパソコンに取り込むか、もしくはUSBケーブルから直接取り込みます。

音声ファイルの形式を変換する

ここまでの話の中で少し触れましたが、音声ファイルにはたくさんの形式があります。

もっとも一般的なのがMP3という形式。

元の音源データを圧縮してあるのでデータが軽く、 持ち歩いたりオンラインでデータを送受信する際などには便利です。

そして、音声の編集時によく使われるのがWAV形式。

元の音源を一切圧縮することなくそのまま保持しているので、 音質がとても良いのですがいかんせん容量が重く、配布には不向き。

他にも、様々な音声の形式がありますが、 私たちが通常よく使うのがこのMP3とWAV形式です。

配布するならMP3。

編集するならWAV、と覚えておきましょう。

そして、MP3をWAVに変換したり、

WAVをMP3に変換するためには、コンバーターとかエンコーダーと言われる専用の変換ソフトを使わなければいけません。

時々「しっぽの拡張子を.mp3から.wavにちょいちょいっと書き換えればOK」 みたいな荒技で本当に再生できてしまう人もいるのですが、

変換ソフトを経由しないで拡張子だけ「.wav」などに書き換えた場合、 自分のパソコンだけならうまく作動しても、

サーバーにアップロードしたり読者さんがダウンロードして聞いたときに、 データが破損していて再生できなくなる可能性がすごく高くなります。

表面だけちょこちょこっと書き換えるのではなく、 きちんと変換ソフトを経由させて音声形式を変換してください。

実は、パソコンで音声を録音するためにインストールした Audacityというソフトを使うことで音声形式を変換させることが可能です。

例えば、WAV形式の音声を取り込んでおいて、 MP3で書き出せば、WAV形式→MP3に変更ができます。

その逆に、MP3を取り込んでおいて、WAVで書き出すことで MP3→WAVへの変更も可能です。



ただ、お使いのスマホやICレコーダーで出力する音声形式が WAVでもMP3でもないため、音声変換ソフトが必要だという時のために、 ソフトの紹介をしておきます。

Any Audio Converter (Windowsのみ)

https://www.any-audio-converter.com/jp/

Online Audio Converter (アクセスしてオンライン上で利用)

https://online-audio-converter.com/ja/



このような変換ソフトはたくさん出回っているので 使いやすいものを選んで使ってみてください。

音声を編集する

せっかく録った音声なのに、いいところで選挙カーが通ったとか、途中で何が言いたいのかわからなくなって 「あー…えーー…そのぉ…」とやってしまった、など、

「あぁ!!ここさえなければうまくいっていたのに!!」と思うことが、きっとあると思います。

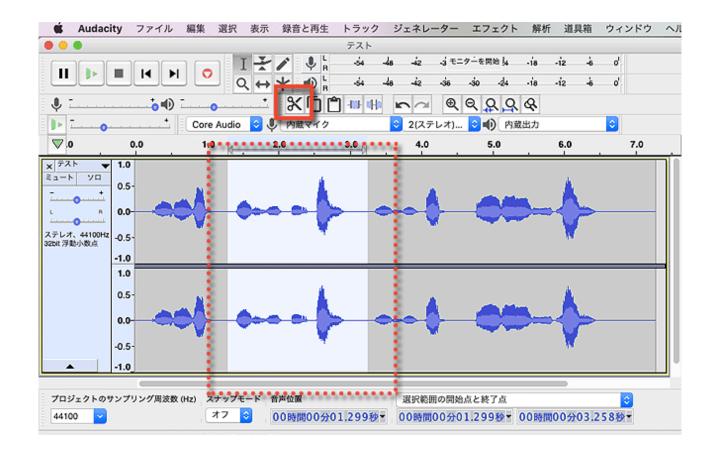
余計な部分のカットはかなり簡単にできてしまいますので、 カットさえ覚えてしまえば、録音中にどもろうが噛もうが無問題。

パソコンで音声を録音する際に使ったAudacityというソフトを使って、 音声コンテンツの余計な部分をカットしてみましょう。

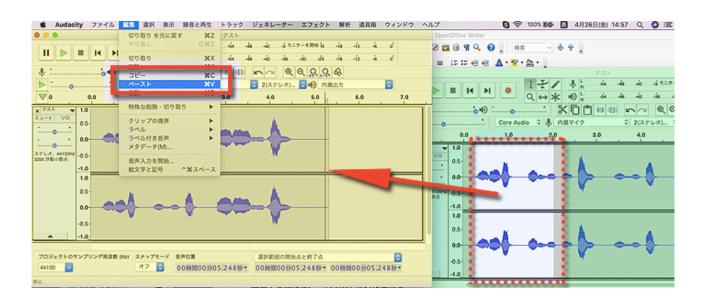
前のセクションでも触れましたが、MP3をMP3のまま編集して MP3として保存すると、圧縮の上に圧縮がかかる状態になるので 音質がとても低下します。

編集する際には、一旦WAV形式に変換した上でおこなってください。

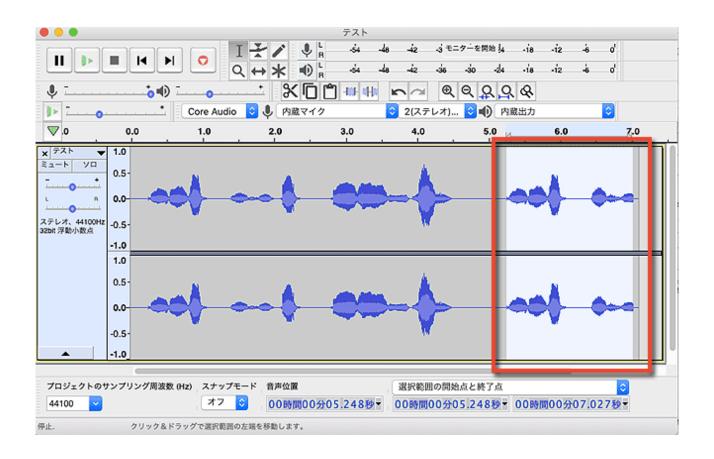
まずはAudacityを起動し、編集したい音声ファイルを開き、 カットしたい部分をマウスでギューッと指定して、 ハサミボタンをクリックすると、指定した部分がカットできます。



また、2つの音声ファイルを開いておいて、 片方のデータをコピーしてもう片方に貼り付けることもできます。



わかりやすいように、2つの音声ファイルにそれぞれ色をつけています。 「編集」タブからコピー、またはペーストを選んで貼り付けてください。



このように、別の音声からコピーすることができました。

音声の一部カットや2つの音声をつなげることができれば、 音声コンテンツで怖いものは無くなります。 ぜひ、どんどんチャレンジしてみてください。

第4章 FTPでアップロードする

出来上がったコンテンツを配布できるように、サーバーにアップロードしましょう。

PDFにせよ音声にせよ、出来上がったコンテンツは、 小規模なものでも意外にファイルサイズが大きくて、 メールに添付して送るには重すぎることが多いのです。

それに、コンテンツが欲しいという人にいちいち手動で対応していてはいくら時間があっても足らないし、 欲しい時にすぐ対応できるとも限りません。

アクセスすれば好きな時にダウンロードできるように準備しておけば、 読者さんが好きなタイミングでダウンロードできますし、 メールでは送れないようなファイルサイズのコンテンツでも ダウンロードURLを送ればいいので大丈夫。

ということで、あなたのレンタルサーバーに 作ったコンテンツをアップロードしてみましょう。

サーバーにデータを転送するには「FTPソフト」という、 パソコンとサーバーをつなぐ専用のソフトが必要なのですが、 無料で素晴らしいソフトが出回っていますので、そちらを使うと便利です。

Windowsユーザーなら「FFFTP」という有名なフリーソフトがあります。

ただ、昨今ではMacユーザーも増えてきており、MacではFFFTPが使えないため別のソフトで代用することになります。

Macの場合は、「FileZilla(ファイルジラ)」というFTPソフトが有名です。 ちなみにFileZillaはWindows版もあり、どちらも非常に優秀なのですが WindowsといえばFFFTPがあまりに有名なのでこちらは少しかすみがち。

こういったFTPソフトは、使うFTPソフトの種類や、 契約しているサーバーによって詳しい設定方法が違ってきます。

レンタルサーバー各社では、FFFTPでもFileZillaでも、 「こうやって設定してください」という案内を公開していますので そちらを参考にFTPソフトを導入してみてください。

例)エックスサーバーが公開しているFTPソフト設置例 (FFFTP)

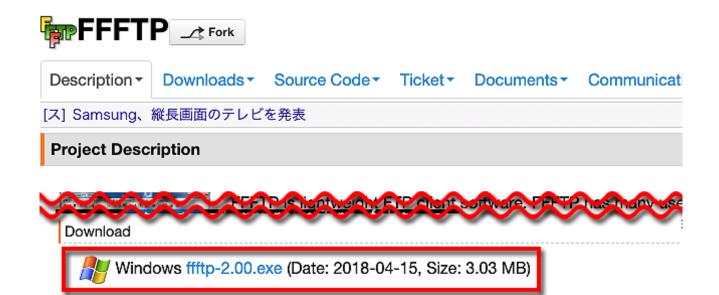
https://www.xserver.ne.jp/manual/man_ftp_ffftp_setting.php (FileZilla)

https://www.xserver.ne.jp/manual/man ftp filezilla setting.php

FTPソフトのダウンロード

• FFFTP (windows用)

https://osdn.net/projects/ffftp/

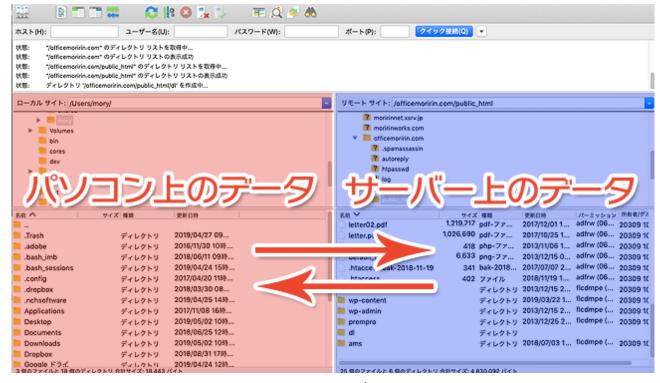


• FileZilla (windows、Mac共にOK)

https://filezilla-project.org/



FTPソフトは通常、このように左右に分かれており、 左はパソコン上のデータを、右がサーバー上のデータを示しています。



67ページ

右から左に、左から右に、データファイルをマウスでぎゅーっと動かせば、 データファイルが動かした先にコピーされ、保存されます。

左(自分のパソコン)から右(サーバー)にデータを動かすことを「**アップロードする**」と言い、アップロードすることで、URLにアクセスすれば世界中のひとに見てもらえるようになります。

右(サーバー)から左(自分のパソコン)にデータを動かすことを「**ダウンロードする**」と言い、サーバー上に置いてあるデータを 自分のパソコンに取り込むことができます。

サーバーにアップロードするコンテンツは、

PDFの他にMP3やMP4、zipファイルなどさまざまな形式がありますが、 名前を半角英数にしておかないとうまくダウンロードできないので注意。

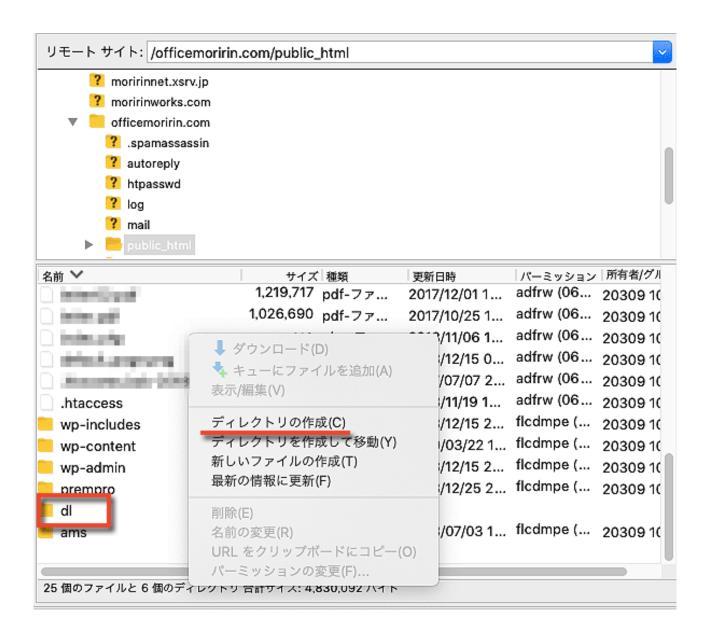
OK・・・「contents01.pdf」「tokuten.mp3」など

NG・・・「特典レポート.pdf」「taidan.mp3」など

また、コンテンツのアップロードは計画的に、秩序をつけてやらないと、 後になってどれがどれだか収拾がつかなくなり、とても困ります。

メール講座で配布している音声やPDFだったり、 ちょっと仮置きしていただけの書きかけレター原稿だったり、 SIRIUSで作ったランディングページだったり。

サーバー上でごっちゃごちゃに入り乱れて、 いるものといらないものが区別できなくなる前に、 あらかじめ区分できる「小屋」を作っておくと便利です。



例えばこのように、【 右 】クリックで「ディレクトリの作成」を行うと 図のように新しいフォルダ(ディレクトリ)を作ることができます。

ここでは「download」を意味する「dl」という名前にしました。 配布用のPDFや音声などはここにまとめておけば分かりやすいですね。

フォルダ名は必ず英数小文字で、覚えやすい名前にしましょう。

第5章 動画コンテンツ

コンテンツ作成といえば、やはり動画も外せません。

特に最近では、スマホが普及したりYouTuberが台頭したりなど、 私たちの暮らしの中で、動画がとても身近になりました。

スマホを使えば、手軽に高品質な自撮り動画が撮れますし、 ゲーム実況みたいにパソコン画面をYouTubeにアップロードする、 という動画が増え、動画キャプチャソフトもたくさん出回っています。

また、Windows10やmacOSの進化により、 最初から動画キャプチャ機能や編集ソフトが付属するようになり、 ますます動画は手の届くコンテンツ形式になりつつあります。

動画コンテンツは音と映像でできていますから、 分かりやすいし演出の幅も広く、効果的に伝えられますね。

PDFなら説明に10ページも20ページもかかるものが、 1分の動画でスパッと解決、なんて珍しくもありません。

かっこいいビジュアルでビシッと決めたり、 あえて生活感丸出しで親近感をかもしだすのも自由自在。 動画をうまく使ったブランディングはとても効果があります。

そして、動画コンテンツがもっとも威力を発揮するのは、 YouTubeや検索エンジンからの集客といっても過言ではありません。

例えばYouTubeならこんな風に、オススメの関連動画がたくさん表示され、 ここに表示された動画をたどっていくうちに他の動画を見てもらえたり、 動画の紹介欄に記載したブログURLからブログに来てもらえたりします。



また、動画の方向性によっては、検索エンジンからの集客も見込めます。



PhotoScapeの評価・使い方 - フリーソフト100

https://freesoft-100.com/review/photo-scape.php *

動画コンテンツの撮影パターン

動画でコンテンツを作るなら、大きく分けて3つのパターンが考えられます。

• 自分が出演する

スマホのカメラなどを使って、何かを語る自分の姿を撮影したり 誰かと対談している様子や人を集めてセミナーをしている様子など、 実際の人物を撮影し、公開するケースです。

• パソコン画面を録画する

パソコンの画面に表示させたものを画像キャプチャソフトで録画しながら しゃべる手法です。

Webサイトの細かい設定方法を解説したり、スライドショーやPDFを見せながらしゃべったりする時によく使います。

• 別々に用意した音声と画像を合成する

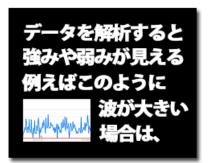
音声コンテンツに後から画像を当てて動画に加工するなど、 別々に用意した音声と画像を接ぎ合わせて動画を作るパターン。 録音しておいた音声に、後から紙芝居のようにスライドを当てて 動画に仕立て直してYouTubeにアップするときなどに使われます。



本人が出演



パソコン画面を録画



スライドで紙芝居

これらは、どれが優れているとか劣っているとかいう話ではなく、 最も効果的に伝わる表現を自由に選べばOK。

自分で動画に出演して話をするのは、インパクトがあるし、 親近感やブランド構築でもなかなか有効な手段ですが、 必ずしも顔を出してご本人が出演する必要はありません。

顔を出すことに抵抗がある場合や顔を出すのがまずい場合だって、 資料を写したり作業する手元だけを映すなど、やり方はいろいろ。

ただし、時々「自分の声が好きではないから」などの理由で、 自分の声ではなく、ゆっくり実況のようなボイスロイドを使う方がおられま すが、これは意味がないのでやめましょう。

私たちが目指すのは、
読者さんとの濃い信頼関係を築くコンテンツ製作です。

顔出しをしないことについてなら、まだ読者の理解が得られるでしょうし、 無理に顔出しをしなくても、いくらでも工夫の余地があります。

でも、ボイスロイドを使ってまで作った動画を使って、師弟関係に近い信頼関係を築くのはかなり無理があります。

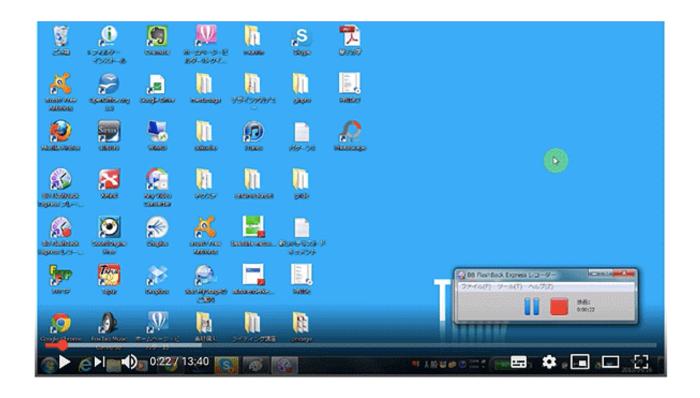
それに、ボイスロイドを製作する手間や時間があれば、 もっと有意義に貯コンできるはず。

声すら出したくないのなら、最初からPDFを使うなど、 読者に胡散臭さを感じさせない工夫をしましょう。

次章では、動画コンテンツの撮影方法について見ていきます。

パソコンの画面を動画キャプチャする

ここからは、例えばこのように、パソコンの画面を動画で撮影しながら 何かを解説するような動画を作る方法を見ていきます。



これはデスクトップを撮影した動画の一部です。

(ここにあるのは画像ですが、本来はYouTubeにアップした動画です)

もちろん、デスクトップ以外にも、立ち上げたソフトを撮影するとか あらかじめレジュメやスライドショーを作っておいて撮影するなど、 アイデア次第で色々な動画が作れます。

こういった動画は、動画キャプチャソフトを使うことで 簡単に撮影することが可能です。

動画キャプチャソフトは色々なものがありますので 徐々に慣れていきながら自分の目的にあったものを探してみてください。

ここでは2つの方法を紹介します。

- 1. BB FlashBack Express (Windowsのみ)
- 2. QuickTime Player (Macのみ)

(他に、ScreencastifyなどGoogle Chromeの拡張機能を使う方法もあります)

• BB FlashBack Express (Windowsのみ)

Windowsの場合、BB FlashBack Expressという無料ソフトを使うと便利。

BB FlashBackはかなり歴史の古いソフトではありますが、 無料でここまで使えるソフトは他に見たことがありません。

普通、この手の画像キャプチャソフトを無料で使おうと思ったら、 自動で入る企業ロゴを我慢しなければいけない、とか、 録画時間に5分とか15分などの制限がかけられていたり、 録画できる範囲が決まっていて、自由に指定することができないなど、

致命的な制限がかかっていることがほとんどなのですが BB FlashBack Expressにはそういった制限がありません。

まぁ、残念ながらそこまで有能なソフトでもないので ゲーム実況などにはついていけないと思いますが、 ビジネスで使うちょっとした解説動画程度であればこれで十分です。

BB FlashBack Express

https://www.flashbackrecorder.com/ja/express/

インストールファイルをダウンロードしたら、 案内に従ってインストールしてください。

最初に使用するときだけ、無料ライセンスを取得するための メールアドレスなどの入力が求められますので案内に従って入力し、 ライセンス登録を済ませておいてください。



BB FlashBack Expressは、このように録音用のレコーダーと 再生用のプレイヤーに別れています(デザインは変わることがあります)

まずは録音用のレコーダーを使ってテスト録音をしてみましょう。レコーダーのアイコンをクリックし、ソフトを起動させてください。



上図のように「モード」をクリックします。



「録画」はフルスクリーンならパソコン画面全体を、

「領域」にすれば自分で好きな範囲を指定することができ(一番よく使う)「ウィンドウ」ならウィンドウの大きさのまま固定となります。

次いで、サウンドを録音するようにチェックを入れてマイクを指定します。 通常はパソコンの内蔵マイクが自動的に割り当てられます。

設定が済んだら「録画」を押します。

領域を指定する時はここで画面の領域を決め、いよいよ録画開始です。 (そういうワクが表示されます) 次のYouTubeのセクションでも触れますが、

YouTubeのアカウントを新規作成した場合、

最初は15分以上の動画をアップロードすることができません。

携帯電話による本人確認か、実際に動画を投稿して運用実績をつけない限り、この制限は解除されません。

まずは、15分以内の短い動画からチャレンジしてみてください。

BB FlashBackでは、撮影した動画を

いったん「FlashBackムービーファイル」という独自の形式で保存します。

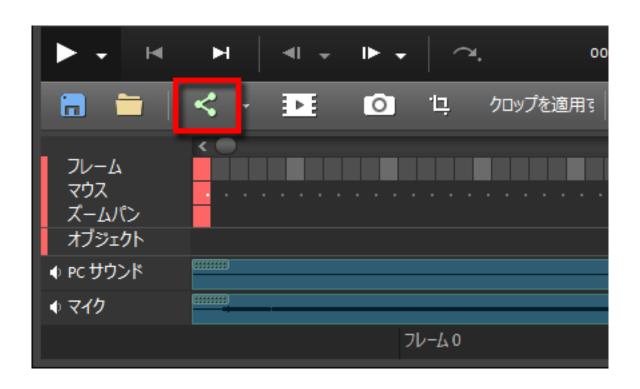
この FlashBackムービーファイル形式の動画は、

BB FlashBackでしか再生することができませんので、

このままではコンテンツとして配布することができません。

配布に適したMP4形式に変換する必要があるのですが、

YouTubeを使うと、非常に手軽にこの作業を行えますので活用しましょう。 **先にYouTubeのアカウントにログイン**しておいてください。



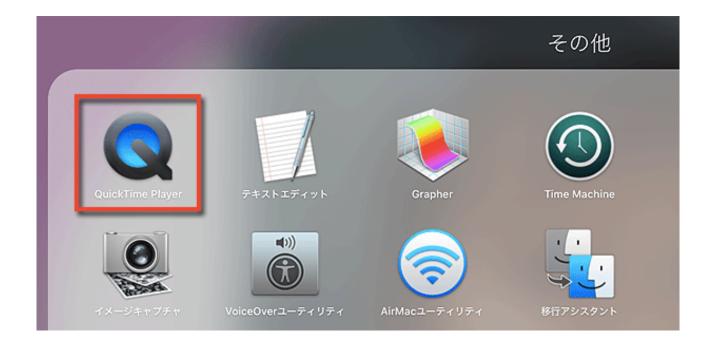
この「共有」ボタンを使えば、そのままYouTubeに動画をアップロードして くれます。

YouTubeを経由すれば、別のエンコード用ソフトを使わなくても、 簡単に動画をMP4形式にすることができます。

MP4変換については、もう少し後のページでも解説しています。

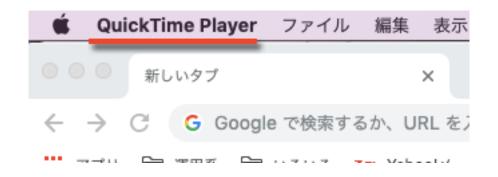
QuickTime Playerを使って録画する(Macのみ)

Macを使っている方は、動画キャプチャソフトを入れなくても、 標準搭載されている「QuickTime Player」というソフトを使いましょう。



LaunchpadもしくはFinder→アプリケーションから「QuickTime Player」を選んでクリックします。

特に何か画面が変わるわけではないけれどよく見れば立ち上がっています。



この画面で「ファイル」→「新規画面入力」と進みます。



すると、画面のどこかに下図のようなコーナーが表示されます。



録画ボタン横のマークをクリックして詳細設定を行います。



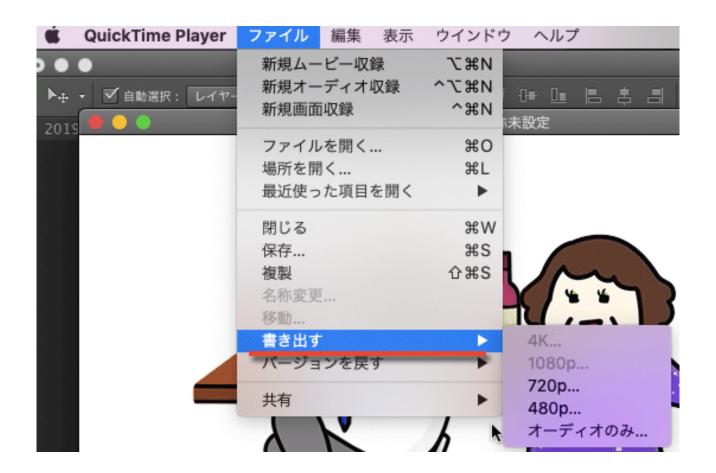
設定したら録画ボタンをクリック。



マウスで録画する範囲を指定して、中央の「録画を開始」をクリックすると 3秒くらい間が空いてから録画が始まります。

録画が終わったら、動画ファイルを書き出します。

このとき、直接パソコンに動画のデータを保存するなら、「書き出す」を選択し、任意のサイズを指定してください。



このまま直接YouTubeにアップロードすることもできます。 先にYouTubeのアカウントにログインしておいてください。



すると、自動的にアップロードが始まります。

スマートフォンなどで動画を撮影する

スマートフォンが普及したとこで、 私たちにとって動画はとても身近になりました。

わずかな操作だけで高品質な動画を撮影開始でき、 簡単な編集ならそのままスマホで行えるし、 撮った動画はその場でYouTubeにアップロードできたりします。

自宅にいながら、ちょっと思いついた話をその場で撮影する、 会場を借りてセミナーを開き、その様子を撮影する、 パソコンのキーボードを分解する様子や魚をさばく様子といった、 解説しながら作業をする手元を撮影する、など、 工夫次第で使い方は無限大です。

また、スマホだけでなく、アクションカメラを使うことで、 より臨場感のある映像を収録することができるようになりました。

アクションカメラとは、体にぴったり巻きつけたりして固定し、 スポーツやレジャーなどを撮影するときに使われます。 (バンジージャンプを飛ぶ様子を撮影するなど)

こういったアクションカメラは、安いものなら1000円程度から 1万円もあればそこそこのものが入手できます。

ただし、やはり動画はどうしてもファイルサイズが大きく、 長い動画だとデータが大きすぎてパソコンに取り込むのもひと苦労。

それに、視聴者だっていきなり長い動画を見るのは抵抗があるものです。

特に、初見の読者向けの動画コンテンツはできるだけコンパクトに、せいぜい2分~5分程度におさめましょう。

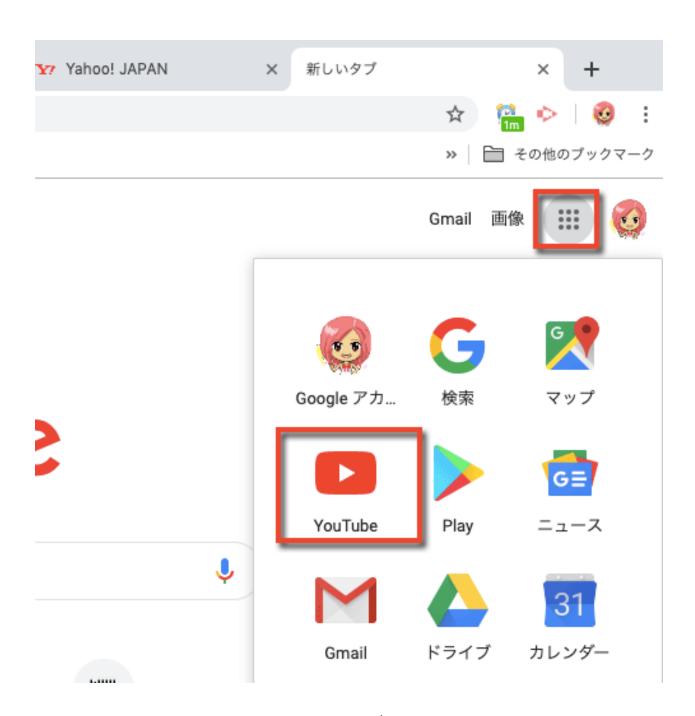
YouTubeを活用しよう

動画コンテンツを作成するときに欠かせないのがYouTube。 動画をアップロードして広くみてもらうだけではなく、 動画を作る際の編集やファイル形式の変換などにも活用できます。

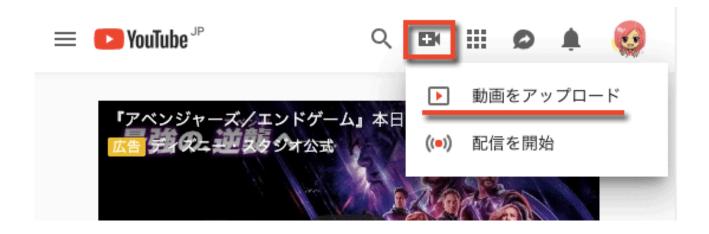
では、早速みていきましょう。

まずは、YouTubeにログインします。

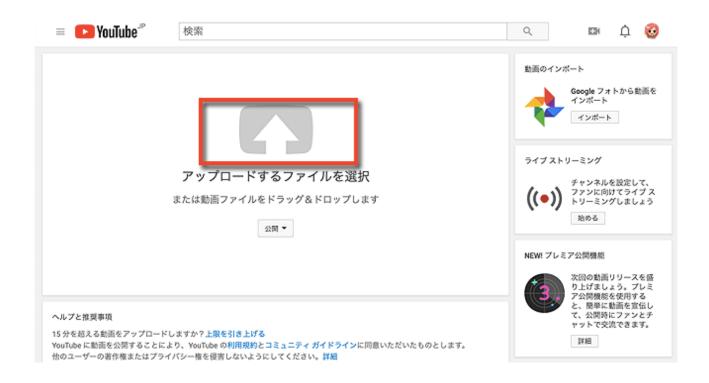
アカウントをお持ちではないかたは案内に従って作成しておいてください。



YouTubeにログインしたら、右上にあるビデオカメラのアイコンから 「動画をアップロード」をクリックします。

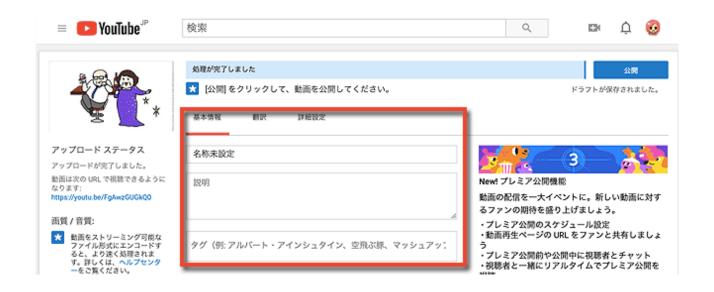


画面が切り替わりますので、中央付近にあるアップロードボタンをクリック してアップロードする動画ファイルを指定します。



動画ファイルを指定すると、アップロードが始まります。

ここで「公開」ボタンをクリックすれば公開できるのですが、 このままではせっかくの集客チャンスがもったいないので、 動画に関する情報を入れていきましょう。



まずは、基本情報コーナーから。 動画のタイトルや説明文、タグを入力していきます。

特に動画のタイトルやタグは、「これこれ!これを探していたんだ」とか、 「面白そうな動画だな」と思わせないといけない重要な任務がありますから じっくり考えて、わかりやすくてキャッチーなものをつけてください。

また、説明文は動画の説明だけでなく、 ブログのURLの宣伝も忘れずに行いましょう。

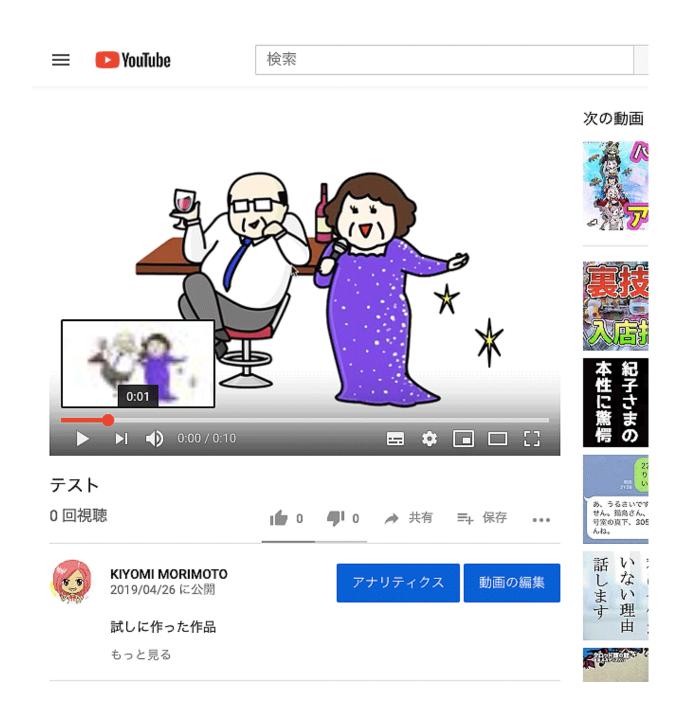
次いで詳細設定のコーナー。



コメントの許可設定などはここでできます。

また申告すべきものを含んでいる場合は忘れずに申告しておいてください。 (年齢制限や有料プロモーションなど)

すべてOKであれば「公開」ボタンをクリックして公開します。



このように動画が公開されました。

動画の冒頭や末尾をカットする

撮り終えた動画をチェックすると、 「冒頭でちょっとモダモダしちゃったなぁ」 「途中で無駄な間があってイヤだ」

みたいに、撮り直すほどじゃないんだけどちょっとカットできたらなぁ、 と思うことが多々あります。

実は動画の場合、撮影だけならとてもお手軽で簡単なのですが、 編集するとなると急に難易度が上がって面倒くさくなります。

まだ動画の最初や最後をちょっとカットするだけならいざ知らず、 動画の途中の部分をカットするとか、 別の動画とつなぎ合わせたりなどは非常に大変。

なので基本的に動画は「編集でどうにかしようと思わない」ことがコツ。

最初から、「**カットできるのは冒頭と末尾のみ**」だと思って、「**そのまま使える**」ように撮影してください。

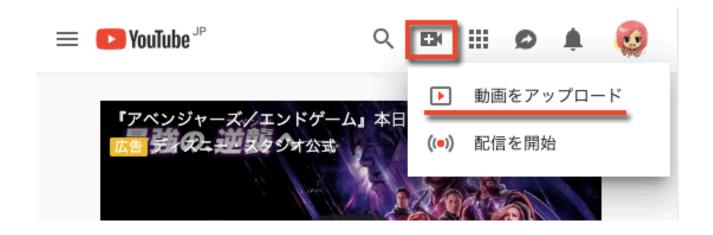
その冒頭と末尾のカットは、意外にYouTubeが便利。

動画キャプチャソフトや動画編集ソフトを使う手もありますが、 YouTubeでお手軽に編集できるのでやってみましょう。

ただし、YouTubeにアップロードできる動画は 最初は15分以内のものに限られます。 運用実績を積むことで制限が解除されますが、それまでは15分がリミット。

15分なんて短すぎるように思えますが、 実は15分ですら「長すぎる」と敬遠されることもありますので まずは、2分~5分程度におさめましょう。

では、YouTubeで動画の冒頭と末尾をカットする方法を見てみましょう。 まずは、ビデオカメラマークから「動画をアップロードする」をクリック。



図のように、左上のマークからマイチャンネルをクリック。



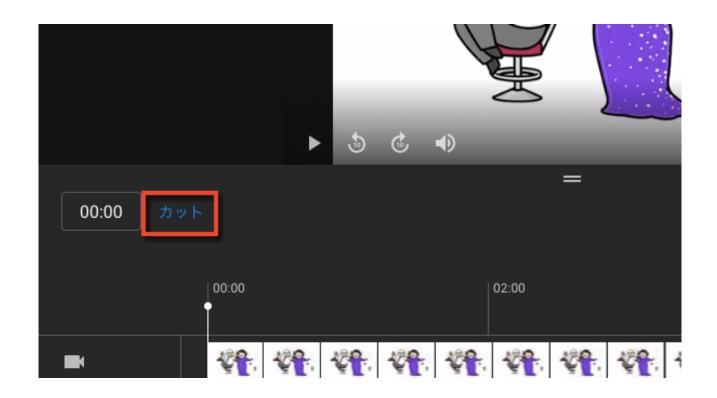
アップロードされている動画が一覧で表示されますので、 該当する動画をクリックします。



表示された動画の下にある「動画の編集」をクリックします。



「エディタ」をクリックすると、編集用の画面に移行します。



図のように、「カット」をクリックします。

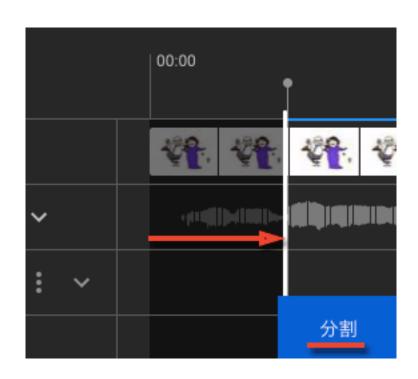


こんな風にブルーの枠が表示されます。



そのブルーの線の真上をクリックしたまま、カットしたい範囲までギューッと指定します。

線の真上をクリックすることと、 あまり上すぎない位置をクリックするとつかみやすいと思います。 末尾をカットする際には末尾にある線を指定してください。

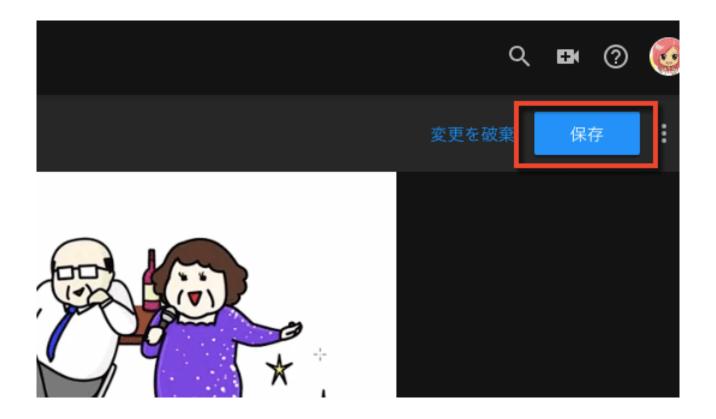


このようにマウスでギューッと指定した範囲が黒くなったら

下にある「分割」ボタンをクリックすると切り離す位置が指定されます。



この位置でOKだと思ったら「プレビュー」ボタンをクリックすると、 上部にある「保存」ボタンがクリックできるようになります。



保存すると編集が確定します。

動画をmp4形式に変換する

さらに、YouTubeを経由させることで、

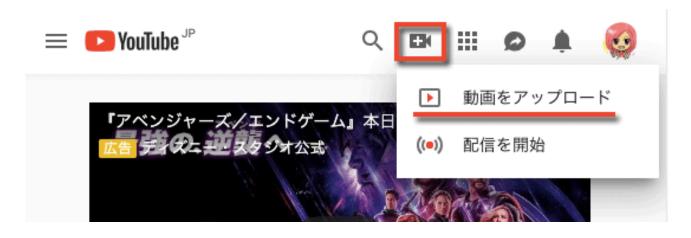
配布に適したMP4形式に変換させる方法を見ていきましょう。

動画には、マイクロソフトの標準形式とされているAVIや、 アップルの標準形式であるMOVなど様々な動画形式があります。

これらには、加工しやすい、割とどんな環境でも再生できる、
画質はいいけれどサイズが重い、など、それぞれに特徴があります。

汎用性の高さならマイクロソフトのAVIもよく使われますが、 AVI形式はファイルサイズが重く、自分のサーバーで保存するのはおすすめし ません。

ここでは動画コンテンツを配布することを念頭に、どんな環境でもほぼ再生可能で、なおかつファイルサイズが軽いMP4に変換します。



ビデオカメラマークから「動画をアップロード」をクリック。



左上のマークから「マイチャンネル」をクリックし「動画」を選択。 図のように、中央付近にある点のマークをクリックします。



もしも、上の図のように左メニュー内に「動画」コーナーがない場合は、 上にある「Studio」をクリックして画面を切り替えてみてください。

「動画」コーナーをクリックして、該当の動画ファイルの横にある点が3つ並んだマークをクリックすると、下図のようにメニューが表示されます。 見当たらない場合、マウスのカーソルを付近に当ててみてください。



「一時保存」をクリックすると、自動的にこの動画のMP4形式のデータがパソコンにダウンロードされます。

ただし、いくらMP4が軽いといっても、 やはり動画ですからそれなりの重さはあります。

そんな重いものを自分のサーバーなどにアップロードすれば、あっという間にサーバーがいっぱいになってしまいます。

また、自分のサーバーで公開するということは、YouTubeの拡散効果を使わないということでもあるのでもったいないですね。

動画ファイルは、自分のサーバーにあげるのではなく、

YouTubeなどのような動画プラットフォームにアップロードしたほうがいいでしょう。

終わりに

これからあなたが作っていくコンテンツは、読者さんをもてなし、 導くためのとても大事な役目を負います。

でも、だからと言って「すごいものを作らなければ」と気負ってしまっては、無駄な力が入ってしまってうまく生み出せなくなってしまいます。

冒頭でも触れたように、コンテンツはとにかくじゃんじゃん作るのがコツ。

たくさん作っていくうちに化学変化が起きたり、作ったコンテンツをブラッシュアップしていくうちに傑作になっていくのです。

その帰納的なプロセスは、ハチミツができるまでにとても似ています。



ただ花の蜜を集めただけでは、ハチミツと同じものにはなりません。

集めた花の蜜を体内で分解したり、羽であおいで水分を蒸発させたりと、 ミツバチというフィルターを通すことではじめて 花の蜜が風味豊かなハチミツとなるのです。

コンテンツの種となるアイデアを集め、 いろんな角度で考察しながら何度も何度も推敲するうちに コンテンツがどんどんブラッシュアップして それらがいつかあなたの財産となっていくでしょう。

これから、小さな花の蜜が徐々に芳醇なハチミツへと変化していくように、 どんどん育てて大きく伸ばしていきましょう。